

令和3年度海岸漂着物実態調査の結果（概要）

県内海岸における漂着物の経年的な組成と量の推移等を把握するために、組成調査を実施

【調査時期】 令和3年12月（冬季）

【調査地点】 4地点

【調査結果】

- ・全地点で自然物の割合が最も高く、次いでプラスチックが高かった。
- ・瀬戸内海側は、ペットボトルや比較的小さなカキ養殖用資材が数多く漂着していた。
- ・響灘側は、人工物では、プラスチックの割合が高く、トレイなどの生活系ごみとロープなどの漁具が同程度に漂着していた。
- ・日本海側は、人工物では、プラスチック、木材（自然物を除く。以下同じ）が多く漂着しており、国外からの漂着物が目立った。
- ・人工物を過年度と比べると、プラスチックの割合の減少傾向が見られる（R1：平均84.3%、R2：69.6%、R3：49.0%）。逆に、木材などのその他人工物が増加傾向にあった（R1：平均15.7%、R2：30.4%、R3：51.0%）。

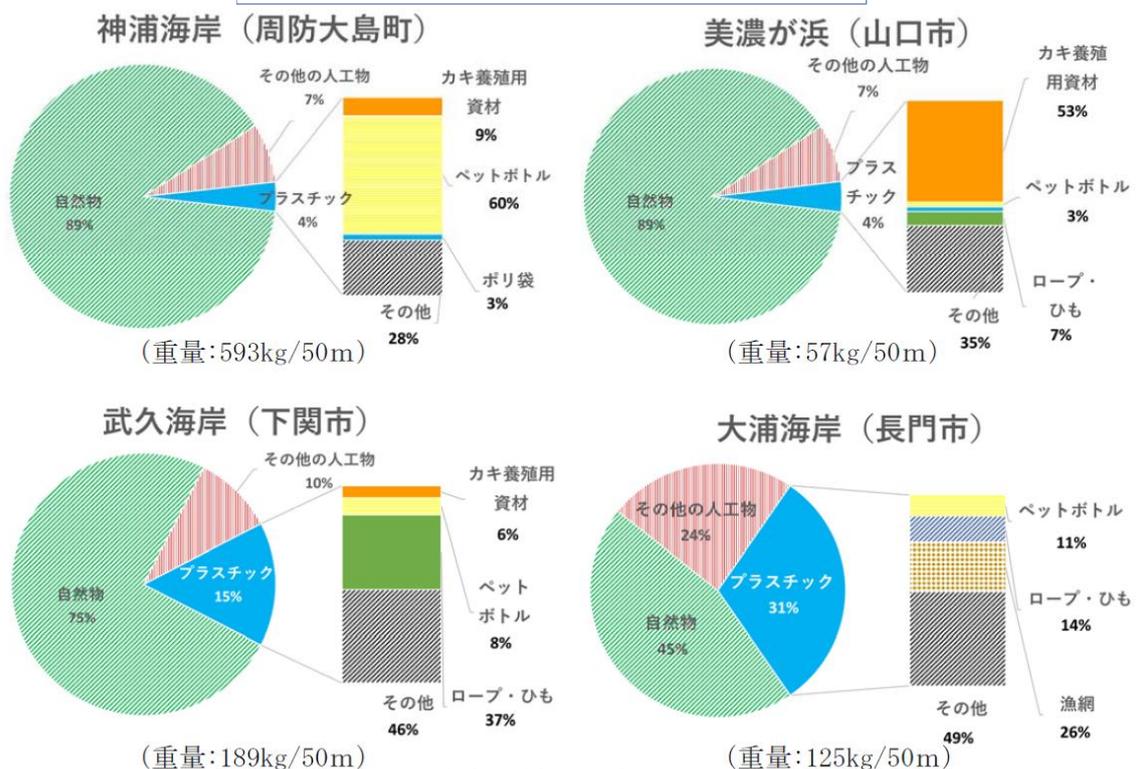


図 海岸漂着物の組成（重量）